

全国脊髄損傷者連合会の代表理事を9期18年つとめた妻屋明さんが2017年2月9日に逝去。3月21日、偲ぶ会が、憲法記念館で催されました。会場に、そっとおかれていた写真と記事の切り抜きから、妻屋さんの若き日をご紹介しますね。7歳で父と死に別れた妻屋さんは、中学を卒業すると旋盤工に。昼は町工場で働き、夜は尼崎工業高校の定時制高校へ。



歌で身をたてようと、大阪ミナミのジャズ喫茶のボーイに。さらにジャズバンドのバンドボーイに、そして念願の東京へ。瀬高明の芸名で、日劇のウェスタンカーニバルの舞台に立ったのは21歳のときでした。東芝から吹き込んだデビューアルバムは「悲しきコダマ」と「いとしのリンダ」。右のようなプロマイドも。



偲ぶ会の会場には、妻屋さん若き日の「ジプシー・ウーマン」の歌声と、いつもかたわらにあったクラシックが流れました。1月29日(日)の理事会には、いつものように出席。来期も代表理事をつとめると語っていた、その10日後の旅立ちでした。